

服部正治教授記念号に寄せて

服部正治先生は立教大学経済学部において、長年にわたり教育・研究の向上と発展に尽力され、さらに立教大学の発展と充実にも大きく寄与されました。その服部正治先生の功績を讃えて、本記念号を発刊できることは、経済学部にとって大変に名誉なことです。

服部正治先生は、1972年3月に金沢大学法文学部経済学科を卒業され、立教大学大学院経済学研究科に進まれました。大学院時代は経済学史の泰斗である小林昇先生に師事され、修士論文は「資本蓄積論におけるスミスとリカード」と題されたご研究でした。また、小林先生の指導方針もあり、先生は大学院時代から内田義彦、藤塚知義、早坂忠など学外の錚々たる先生方のゼミナールに参加され、研究を深められました。先生は1976年4月に本学経済学部助手に就任し、1979年3月に満期退職するまで3年間経済学部助手として勤務されました。助手退職後の1980年3月には本学経済学研究科博士課程を満期退学され、同年7月に日本学術振興会奨励研究員となります。そして1982年4月に立教大学経済学部専任講師に就任しました。これ以降33年、助手時代を入れると36年という長きにわたり立教大学および経済学部の教育、研究、組織運営に大きく貢献をされました。

1984年4月に経済学部助教授に昇格された服部正治先生は、1987年から88年までロンドン大学歴史学研究所およびダラム大学経済学部留学され、1991年4月に経済学部教授に昇格すると同時に経済学科長に就任されました。服部先生は経済学部では経済学史を担当されましたが、本学経済学部の経済学史は輝かしい学問的伝統と名声が積み重ねられた科目です。服部先生もまた幾多の優れた研究成果と経済学史学会など関連学会の要職を歴任することで、その伝統と名声をさらに高められました。服部先生の経済学史研究の到達点は、先生の3冊の研究書、『穀物法論争』（昭和堂、1991年）、『自由と保護 イギリス通商政策論史』（ナカニシヤ出版、1999年）、『イギリス食料政策論 FAO 初代事務局長 J. B. オール』（日本経済評論社、2014年）に明らかにされていると思われます。最初の著作であった『穀物法論争』は1815年のリカードウ・マルサス穀物法論争以来の100年にわたるイギリスの食料自由貿易論争史を跡づけたまさしく記念碑的研究です。この先生の研究に対し、中村廣治広島大学名誉教授は「政策（思想）史研究の一範例」とする評価を示しており、中村先生のこうした評価が本研究の画期性と学問的価値を集約的に示すものです。2冊目の研究書『自由と保護』は、1760年からイギリスがECに加盟した1973年までの200年にわたるイギリス通商政策を跡づけたものでした。この研

究に対しても、例えば橋本昭一関西大学名誉教授は「このような壮大な研究テーマに取り組み、完遂した著者の気力と意欲の旺盛さにはただただ感嘆するのみ」という評価を示しています。この評価は、経済学史学界に共有された評価でもありました。さらに、最新の『イギリス食料政策論』では、国連FAO初代事務局長オールの食料政策論について先生は総合的に研究を進め、第二次世界大戦直後の世界の食料危機とそれ以降の食料通商政策を見通す研究成果を上げられました。これら以外にも先生はたくさんの共著書や学术论文を通じて、その研究成果を世に問いましたが、それらについて触れる余裕はありません。それらを含め、服部先生のご研究は、長期的かつ総合的な研究視角から、これまでの通説を鋭くかつ斬新に批判し、再構築する画期的な成果でした。服部先生の重厚かつ斬新な経済学史研究の意義については、早くから学界において衆目の一致するところで、先生は1993年に伝統ある経済学史学会の幹事に選出されて以来、立教大学在職中は同学会幹事ならびに常任幹事（企画交流委員長、学会賞審査委員会委員長、大会組織委員会委員長）に途切れることなく選出され、2009-2011年には同学会代表幹事（学会長）の重責を務められています。この点から見ても服部先生が、名実ともにわが国の経済学史研究を代表する研究者であることが分かります。

服部正治先生は日本を代表する経済学史研究者の道を歩む一方で、立教大学および経済学部の発展にも大きな足跡を残されました。1991年4月の教授昇格と同時に経済学科長に就任し、1995年4月には経済学部長・大学院経済学研究科委員長と立教学院評議員を兼務します。また、1999年4月には大学院経済学研究科経済学専攻前期・後期課程主任に就任されました。こうした経済学部および立教学院の要職を歴任するだけでなく、先生は押見輝雄第17代総長の下で2002年10月に総長補佐に就任し、2006年に大橋英五経済学部教授が第18代総長に就任すると、引き続き大橋総長の下で総長補佐を務められました。先生はこの間に立教大学の教育体制改革や組織改革に尽力し、立教大学の発展と改革に大きな貢献をされました。こうした先生の立教大学の発展に向けられた多大な尽力と熱意には心からの敬意を感じざるを得ません。

服部正治先生の立教大学経済学部在職期の功績を、経済学説史研究の輝かしい業績と立教大学および経済学部での役職を中心に簡単に振り返りました。まだまだ紹介きれない業績は多々ありますが、ここに記した限りでも、あらためて先生の研究者としての輝かしい功績に瞠目させられるとともに立教大学における先生の存在の大きさを感じます。先生が身を以て示された真摯で重厚な研究姿勢と大学改革への熱意は、私たち全員が深く胸に刻み継承していかなければならないものと思います。服部正治先生がこれからもご健勝でますますご活躍されることを祈念して、本記念号の発刊の辞に代えさせていただきます。

2015年12月

経済学部長 須永 徳武